

# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 229



\*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

問) 戦後、最初に発行された一円札には、誰がデザインされていたのか知りたい。

答)

- ① **全資料検索** → キーワード **紙幣 デザイン** で検索 → 6件 (図書3件、雑誌3件)  
『日本のお金 近代通貨ハンドブック』(337/057 閉架 000053857)
- ② **全資料検索** → キーワード **日本 貨幣** で検索 → 10件 (図書3件、雑誌1件、写真1件)  
『昭和財政史 第9巻 終戦から講和まで』(342/057/9 閉架 000011296)
- ③ **図書検索** → 「タイトルから探す」 **日本 貨幣** で検索 → 23件  
『図録日本の貨幣 9 管理通貨制度化の通貨』(337/N71/9 閉架 000036800)

昭和21年(1946)の新円発行にともない、紙幣のデザインも一新されました。  
昭和18年12月より発行されていた一円紙幣(「い号券」)の表面のデザインは、古代の忠臣「<sup>たけうち</sup>武内宿禰」でした。  
戦後、GHQの要請により、通貨の図案については軍国主義的または超国家主義的指導者の肖像の使用が禁止され、新紙幣の一円札には「二宮尊徳」がデザインされました。

◇常設展示室の第6ブース「遺された家族」には、「新円」(十円・五円・一円の新紙幣)が展示されています。実物の資料もあわせて、ぜひご覧ください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

# 箱根駅伝100周年

令和2年(2020)に行われる箱根駅伝は100周年を迎え、第96回目の大会となります。大正9年(1920)にはじまった箱根駅伝は、参加校が東京高等師範学校(現在の筑波大学)、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学の4校のみで開催されました。第1回優勝校の東京高等師範学校は、スタートの発声をした日本初のオリンピック選手・金栗四三の母校でした。

日中戦争がはじまると、その影響は駅伝にも及びます。軍需物資の輸送のため国道1号の使用許可が下りず、関東学生陸上競技連盟(関東学連)は、国道1号を使用しない、箱根駅伝に替わる大会を開催することにします。それは明治神宮水泳場前から青梅の熊野神社までを往復する大会で、「東京青梅間大学専門学校鍛錬継走大会」と名付けられました。全行程は約107キロと箱根駅伝のおよそ半分で、昭和16年(1941)1月と11月に行われました。11月に行われた理由は、戦争の影響による学生たちの繰り上げ卒業を考慮したためでした。その後、文部省は明治神宮大会を除く全国的な競技会を中止させ、駅伝も昭和18年(1943)まで中断となりました。

中断後も関東学連は箱根駅伝の開催を働きかけ、戦勝祈願を名目として靖国神社と箱根の往復にすることで軍部を説得し、昭和18年に「靖国神社・箱根神社間往復 関東学徒鍛錬継走大会」として開催します。しかし選手にとって二年間のブランクは大きく、また箱根駅伝の経験者の多くは卒業していた為、選手を集めるのに苦労したようです。

この18年大会は、コースが通常とは異なるなどの理由で、正式な大会として認められず、「幻の大会」とも呼ばれていました。正式な大会として認められたのは、昭和35年(1960)になってからでした。

翌19年から21年までは太平洋戦争のため再び中断となりました。昭和21年(1946)には、戦時中に解散していた関東学連が復活し、箱根駅伝復活のために動き始めます。その舵取りを担ったのが、昭和18年の「幻の大会」を走った中央大学の村上利明と立教大学の高橋豊でした。

昭和22年(1947)、復活の大会となった第23回大会は、各チームとも物資の調達に奔走し、旅館に入る際には部員たちは苦労して米や缶詰を持参しました。また、10着のユニフォームを揃えることに苦労したチームもあったと伝えられています。

2020年は箱根駅伝100周年であり、東京五輪開催の年でもあります。どのような熱戦が繰り広げられるのでしょうか。楽しみですね。

## 参考文献

『最後の箱根駅伝』782/H47 紹介本

『昭和十八年幻の箱根駅伝』782/Sa95 紹介本

『箱根駅伝70年史』782/Ka59 紹介本

『夔誌(日本大学広報部大学史編纂課) 第6号(2011年3月)』069/Ko95/6 地下書庫和雑誌



ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 229

2019年12月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1